ダイオキシン類調査の土壌試料採取方法　（H12 環水土 12 号）

１．説 明 図

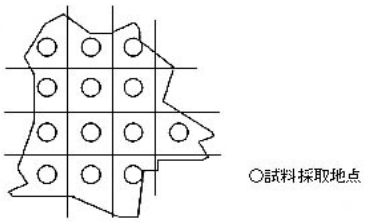

図１．地域区分による例

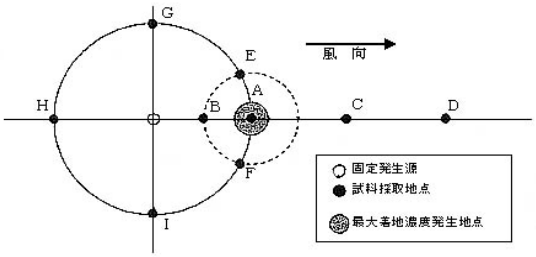

図２．発生源周辺における調査地点の設定

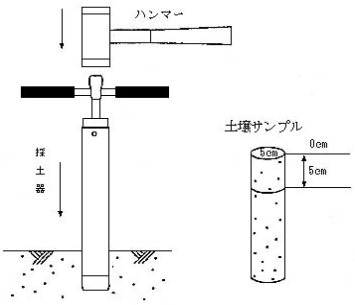

図３．土壌採取方法

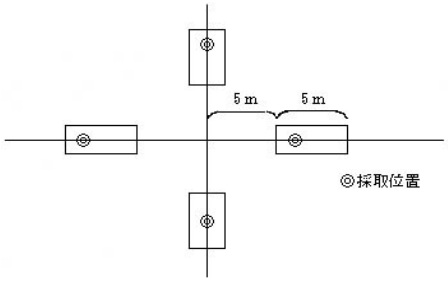

図４．５地点混合法の例

※ダイオキシン類に係る土壌調査測定マニュアルより引用

２．概　要

まず地域概況調査を実施することとなる。図１は発生源あるいは行政区分によらない一般的な配点方法である。発生・排出する施設においては，気象・大気データなどをもとにシミュレーションを行い，影響を最も受けると予想される場所を求め，その地点および周辺地域を対象とする（図２）。

表層土壌試料の採取は，原則として５地点混合法とする（図４）。採取深度は地表面から５cm までとするが，農用地など人為的な撹拌を伴う土地は，地表面から 30cm までを採取する。採取方法は，図３のようなステンレス円筒を用い，植物をできるだけ避けてハンマーで打ち込み円筒容器をそのまま回収する。やむをえず草地から採取する場合は，草を刈り根茎は含んだ状態で採取する。また廃棄物そのものの場所からは採取しない。

３．目　的

ダイオキシン類特別措置法による土壌試料採取しダイオキシン類の分析に使用する。

４．注意事項・その他

・ダイオキシン類は，難溶性で大気拡散により広域に地表へ降下するが，土壌表面にとどまり地下深部には浸透しにくい，といった特性を念頭に置く。
・採取に使用する用具は，二次汚染に十分注意する。
・採取時の情報として，①使用した器具の種類　②採取地点付近の建物，立木，日照など　③枯葉などの被覆物　④採取方法，地点間の距離　⑤試料の土性，色などを記録する。